



小鯖小学校だより 11月号

令和3年11月 1日
山口市立小鯖小学校

【学校教育目標】 確かな学力と豊かな心を持ち、たくましく生き抜く小鯖っ子の育成

【めざす子ども像】 困：思いやりのある子 喜：さわやか元気な子 ば：ばっちり学ぶ子

小鯖小学校はコミュニティ・スクールです！

校長 高田 修司

コロナ禍の中、泊を伴う6年生修学旅行や5年生宿泊学習も無事終わりました。

これからも、11月2日の校内音楽会や12月1日の持久走大会、そして年明け1月25日の竹馬大会など、予定どおり実施できることを願っています。



ところで…、ご存じのとおり小鯖小学校は、子どもの学びや育ちについて、目指す子ども像を家庭、地域と共に考え、その実現に向けて「連携・協働」しながら取組を推進していく「コミュニティ・スクール」（地域とともに歩む学校、学校運営協議会を設置している学校）です。

学校では、当然先生たちがその推進役として目の前の教育活動を展開していきませんが、子どもたちにさせてやりたいことが増えれば、必然的に時間と人手が足りなくなってしまうのは世の常です。



地域の方にいただいた牛乳パック本立て

小鯖小学校では、学校運営協議会会長の手嶋如水さんを中心に、たくさんの地域の方々が学校に対して幅広い知恵と支援（人手）を差し伸べてくださり、子どもたちの豊かな学びと健やかな成長への支えになってくださっていることに大変感謝しております。

ただ、「持続可能な連携・協働」のためには、学校に限らず、例えば「困っている学校（人）⇔助ける地域（人）」という、助ける側の人間性や自己犠牲に強く依存したステレオタイプの関係性から脱却し、助ける側にも何か得るものがある「Win-Win（ウインウイン）」の関係を目指すことがベターだと言われています。



中村さんからいただいたパイナップルが実った！

そして、一見「Win-Win」に見える関係でも、その根底に「助ける側の選択の自由」（無理なときは断れること）が担保されていなかったら、やがてどこかで無理が生じ、活動の継続はおろか両者の関係性そのものが破綻してしまいます。

『できる人が、できる時に、できることを、できる場所で』

この考え方がスタンダードになるよう、「連携・協働」しながら、持続可能な未来に続く「コミュニティ（・スクール）おさば」を皆さんと一緒に創っていきませんか？

